

『空手道大観』の内容についても触れなくてはならない。一言で言えば、内容が多岐にわたり、かえって体育唐手と距離ができた感がある。「唐手」でなく「空手」だから、内容が多岐にわたってもよい、との詭弁きべんは成り立つかも知れない。

三

教育唐手と武道唐手の狭間はざまで

これまで唐手を教育唐手という立場から書いてきた。唐手というものは、決して自然発生的にできたものでもなく、また個人の恣意しゐいによってできたものでもない。学校教育の目的に沿うよう、意図的に創案されたものである。

もっと具体的にいえば、明治の後期に糸洲安恒を委員に委嘱、県学務課の指導監督のもとにできたものである。さらに、当時の文部省視学官、小川鋌太郎の文部省への上申もあつたという。言うなれば、官制品官許の唐手ということになる。

右に述べた経緯で出来上がったものは、ものの良し悪しの批判は別として、社会の一つの基準、物差しとなる。言い換えれば、秩序の基準となる。したがって、個人の意思で勝手に変えるわけにはいかない。その後の問題の原因は、役所の肝煎りで、「手」を母体として「唐手」（教育唐手）が誕生した。市井の「手」と違います、との要点の説明PRが不徹底だったことである。私は、以上述べたような目で、長いこと唐手を見てきた。唐手に志した多くの者が、唐手が官制であるという認識を忘れていた。小さな問題かも知れないが、沖縄県学務課は、唐手を体育として位置付けたが、糸洲安恒の給与は、武道教師としての手当であった。役所の給与規定による名目かも知れないが、この辺にも唐手を武道として印象づけた原因があるのではなかったろうか、唐手には草創期から負の影がさしていたようにも見える。

また、体育として作られた「平安」の型は、多くの流派の中で武道ということでは修練されている。体育がよい、武道が悪いとかでなく、明らかな間違いである。しかし、この間違いが堂々と罷り通っている。唐手が普及するにつれて、教育唐手が仮称武道唐手に変貌していく。そして唐手の実体がわからなくなってしまう。やがて、実体不明なものが、教育の聖域に登場することになる。

「教育唐手」という言葉は、本来ない

教育唐手という言葉は、本来ない。学校教育の目的で意図的に創案された唐手が、広く普及するにつれて、同じ唐手でも、忠実に教育唐手の精神と技を伝承するものと武道色の強い唐手を指導するものと二つに分かれることになる。さらに、仮称武道唐手に流派なるものが派生すれば、最早もはや両者は同じ唐手とは称し難いのである。そこで両者を区別するために、また両者を対比し、違いを証明する都合で、一方を仮称武道唐手としたことを、お断りする。

◇教育唐手とは

教育唐手とはこれまでたびたび述べたように、相手の身体を損なわないという人間尊重の精神を基調として、学校教育の目的に沿うよう十四の枠組みの型を修練することである。十四の枠組みの型の名称は次のとおりである。

旧伝統型から糸洲安恒が修正したもの

ナイファンチ初段

パッサイ（大）

パッサイ（小）

公相君（大）

公相君（小）

チントウ

五十四歩

糸洲安恒の創案になるもの

ナイファンチ二段

ナイファンチ三段

平安（初段）

平安（二段）

平安（三段）

平安（四段）

平安（五段）

現在、忠実に教育唐手の伝統を継承している団体は、極めて少数派になっていると思う。唐手とは教育唐手のことであり、しかも、多くの会派団体の型修練の主体となっているのは教育唐手である。おそらくこの実体を認識している人も少数派に属するであろう。

空手界には、四大会派があるといわれている。ランク付けはできないが、松濤館流、和道流、糸東流、剛柔流の四つである。決して他の流会派を軽視しているわけではない。斯界では知名度も高く、また、会派の内容もおよそのことは分かっている。四つの会派を取り上げた。

主に白鶴拳を伝承する剛柔流は、他の会派と系統が異なるので別として、松濤館流、和道流、糸東流は、指導している型の枠組みの主体が、教育唐手の型と同じである。

たとえば、糸東流は型の数が一番多い。剛柔流の型あり、泊系統、首里の系統、果ては中国拳法まである。が、指導の主流は教育唐手である。三つの会派の型の主流は、教育唐手の枠組みの型である、と言っても決して過言でない。しかも、それぞれが武道唐手（空手）として指導普及されている。極言すれば、日本の武道唐手（空手）の型の主流は、教育唐手の枠組みの型である。

教育唐手と武道唐手は異次元のもの

筆者は、教育唐手がよいとか武道唐手（空手）では都合が悪いとかを論じる意図はない。体育と武道は、技術的には似ている点もあるが、その精神において、全く異なるものである、と考えている。両者ともそれぞれ特質長所があるけれども、異次元のものであると考える。次元の異なるものを、一緒にしてしまったところに、なぜ、との疑問を持つ者である。とくに学校教育の場合、心情的な物の見方ではなく、史実を踏まえた論理というものが求められるはずである。

一般に武道、体育から学ぶべきものは、技の修練から入って精神に到達するものと考えられている。形式は内容を決定する、ともいわれているように、形式、つまり唐手における型は極めて重要である。しかし、筆者は、型修練以前に唐手（空手）の歴史・理念をきちんと理解することが最も大事なことはなからうかと考える。唐手（空手）の歴史を知らず理念を忘れたのでは、舵のない船に乗っているに等しい、と言え、あまりにも言い過ぎであろうか。